

生まれた季節と 赤ちゃんの運動発達とは関係がある？

「出生月と運動発達の関連について」より

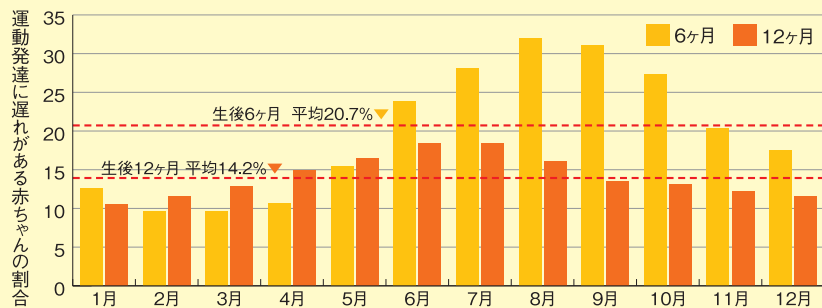


高知大学医学部 環境医学教室
特任助教

安光ラヴェル 香保子先生



▶ 運動発達の遅れ傾向(誕生月別)



※ 今回の分析の対象となった赤ちゃん数: 72,203名

運動発達に遅れの傾向がみられた赤ちゃんの数: 生後6ヶ月 14,960名 (20.7%) 生後12ヶ月 10,260名 (14.2%)

生後12ヶ月では、運動に遅れがある赤ちゃん全体の割合が減り、誕生月による差も小さくなっています



エコチル調査の質問票から生後6ヶ月と12ヶ月の赤ちゃんの運動の発達(寝返りやつかまり立ち等)とお誕生月との関係を調べました。その結果、夏生まれの方が冬生まれに比べて、運動発達に遅れの傾向がある赤ちゃんの割合が高い結果となり、妊娠中や生後間も無くの季節による違いが、赤ちゃんの発達に影響を与えている可能性が示唆されました。これまでの研究では、季節と子どもの発達について

明確な結論はでないものの、脳や中枢神経が急速に発達する胎児期初期が冬と重なる夏生まれの赤ちゃんについて、妊娠中のお母さんのビタミンD不足や感染症の増加などが赤ちゃんの発達に影響を与える可能性が指摘されています。今回の研究では、これらの可能性については分析しておらず、お誕生の季節による長期的影響やメカニズムについては今後更に研究をする必要があります。